

1 単元名 ポスターをつくる—生活をよりよくするために—

2 単元の目標

- ・形や色、余白といった視覚情報が感情にもたらす効果を理解し、効果的に使おうとしている。
- ・絵具やペンなどの道具を表現意図にあわせて選択している。
- ・身の回りの課題をSDGsと関連させることができる。

(知識及び技能)

- ・興味関心を引くキャッチコピーや絵柄、色、構図を発想し、表現することができる。
- ・思いや考えを図柄や色の組み合わせで発想することができる。

(思考力・判断力・表現力等)

- ・今まで習った技法を活用し、よりよい作品を目指す。
- ・興味を持って制作、鑑賞に取り組む。
- ・SDGsの視点を持ち、身の回りの生活の課題について追及しようとする。

(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

ポスターは情報やメッセージを他の人々に色や形による造形表現によって伝えるものである。コピーを入れることで言葉によって内容をよりわかりやすくすることもできる。制作にあたっては、テーマの設定が重要となってくる。生徒にとって関わりの深い生活の中から考えさせることで個々がテーマを設定しやすくなると思った。併せて自身のテーマがSDGsの項目のどれに当てはまるかを考えさせる。前授業で悲しい、楽しいといった感情を色や形で表現することを学習しているが、本題材では自分が生活している場面で考えたり感じたりすることを表現する経験を通してコミュニケーションの手段のひとつとして造形的方法のよさを感じ取らせていきたい。さらに、相互に作品鑑賞をすることで、自分が感じ取った印象が形や色から受けていることにも気づかせていきたい。

(2) 生徒の実態

前授業では、基本的な書体である明朝体を学習し、「永」の字をレタリングした。装飾は色彩の基本事項を学習し、混色の経験をさせるためグラデーションを取り入れた表現を意識させた。また、人の感情を色や形で表す課題とした制作を経験している。本題材では、生活の中から各自のテーマを考えさせている、給食に関するもの、運動に関するもの、掃除に関するものなどがテーマとして挙げられている。しかし、テーマを制作につなげるとなると何を描いたら良いのかわからないと戸惑う姿がみられる。そのような生徒に対しては、個々に思いを聞き、考えを整理し構想へとつなげられるよう支援していき制作の意欲へとつなげていきたい。

(3) 指導観 絵を描くというと実物そっくりに描けないと敬遠する姿がみられることがある。絵を描くことへの苦手意識から制作をあきらめさせないように、いわゆる棒人間を用いた表現も取り入れていく。単純なかたちではあるが苦手意識のある生徒には人の動きを表すには難しさが軽減されると考える。また、写実的な表現の出来不出来にこだわらないように配色の工夫でイメージを表現する意識を持たせたい。これらを踏まえ、アイデアスケッチを描く中で、個々の描写力を見極めて表現可能なポイントを見つけ、そこを中心にイメージを色や形にするよう支援をしていく。彩色の方法としては平塗りを中心としていくが、水彩画的な水分量を多くし

た表現も取り入れていく。完成した作品を相互に鑑賞させ、伝えたい内容をどのように表現しているかなど感じ取らせ、鑑賞カードに記入させ作品の理解を深めさせていく手立てとしたい。

テーマを設定する際にはSDGsの基礎知識をおさらいし、自分たちの身の回りの課題に目を向けさせ、自分たちにできることを起点に文言や色や絵などを決定することで、ポスターを制作するだけでなく、行動に移す意識を高めたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相関性…テーマを考える際に自分たちの生活を振り返り、現在課題だと思うことは将来の課題につながっていく可能性があるということ。

多様性…課題解決に向けた手立ては様々なものがあり、それぞれにできることがあるということを感じさせる表現を目指す。

連携性…皆の力を合わせて課題解決に向けて活動していくことが大切である。

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

未来像を予想して計画を立てる力…構想を練りながら、将来の良い姿や悪い姿を想像し、それに向けてどのように行動するとよいかを考える。

進んで参加する態度…それぞれが感じる課題に対して、自分にできることはないかを考え、自ら行動しようとする。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公平…自分たちだけでなく、次の世代のために、という感覚も必要。

環境の保全と回復…自分たちの力で地域の環境を守っていかねばならない。

・達成が期待されるSDGs

- 2 飢饉をゼロに
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 12 作る責任・使う責任
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 森の豊かさを守ろう

4 単元の評価規準

| | |
|----------------|---|
| 知識及び技能 | ○自分の思いや考えを、形（図柄）や色を工夫して意欲的に表現する。形や色、余白などが感情にもたらず効果を理解できる。 ○絵具の表現技法などを意図に応じて使用することができる。 |
| 思考力, 判断力, 表現力等 | ○見る人が興味関心を持つような発想することができる。 ○自身の思いを表現できる配色や形を考えることができる。 |
| 学びに向かう力, 人間性等 | ○今まで学んだことを生かして、試行錯誤しながら工夫して取り組むことができる。 ○SDGsの視点を持って身の回りの課題について考えようとしている。 |

5単元の指導計画

| 時配 | 主な学習活動 | 評価基準（方法） |
|------------------|---|--|
| 0.5 | ○テーマについて考える ワークシートにテーマとなる言葉を書き出し、関連する事柄を連想する。 | 課題に対して意欲的に取り組むことができる。（関）【ワークシート】 |
| 0.5 | ○コピーについて考える ポスターで表現する内容にふさわしいコピーを考える。 | ひとつだけでなく、思いついた言葉を複数書き出そうとする。（関）【ワークシート】 |
| 3 | ○自分が決定したテーマについてアイデアスケッチを描く ポスターにする内容を絵で表し、コピーの配置も考えてスケッチする。 配色を考え、色鉛筆で彩色する。 | 自分が表現しようとする内容を図柄や色で工夫して表そうとする。（発）【アイデアスケッチ】 |
| 7 (本時 1/7) | ○アイデアスケッチを基に下描きする。 ○コピーの文字をレタリングする。 ○計画に沿ってアクリル絵の具の特徴を生かすよう彩色する。 | 完成を想定して丁寧に描くことができる。 書体や大きさを工夫してレタリングができる。 イメージに合うように彩色の方法を工夫して制作することができる。（創）【作品】 |
| 1 | ・自分の作品と友達の良いところ、工夫点を見つけ、ワークシートに記入する。 | 自分の作品や友達の良い点や工夫点を見つけ、言葉にすることができる。（鑑）【ワークシート】 |